



香川大学大学院 地域マネジメント研究科

事務室 香川大学統合事務センター教務課（地域マネジメント研究科担当）

〒760-8523 香川県高松市幸町2-1

tel.087-832-1826

URL <http://www.gsm.kagawa-u.ac.jp/>

沿革

大正12年(1923年) 官立高松高等商業学校を現校地に創立
昭和19年(1944年) 高松高等商業学校を高松経済専門学校に改称
昭和24年(1949年) 香川大学経済学部発足
昭和56年(1981年) 香川大学法学部発足
平成15年(2003年) 香川大学大学院地域マネジメント研究科設立認可
平成16年(2004年) 連合法務研究科とともに大学院地域マネジメント研究科創設
平成21年(2009年) 大学基準協会経営系専門職大学院認証評価の適合認定
平成26年(2014年) 創立10周年記念行事開催
平成26年(2014年) 大学基準協会経営系専門職大学院認証評価の適合認定
平成31年(2019年) 大学基準協会経営系専門職大学院認証評価の適合認定
令和6年(2024年) 大学基準協会経営系専門職大学院認証評価の適合認定

2025年4月1日発行

地域新時代を拓くプロフェッショナルになる

香川大学大学院 地域マネジメント研究科 2025年度要覧

Business School

香川大学大学院地域マネジメント研究科は、
わが国初の地域活性化に貢献する教育研究を目的とした
経営系専門職大学院として開校し、22年目を迎えました。

“ ビジネスと地域公共領域の融合で地域のリーダーを養成します。 ”



ご挨拶

香川大学大学院
地域マネジメント研究科長
中村 正伸

日本の経済と社会を建て直すため、地域の役割が注目され、官民あげて地方創生の取り組みが行われてきています。国立大学法人も各地域において、中心的なプレーヤーのひとつとしての役割を果たすことを求められる時代になっています。香川大学も、「持続可能な地方分散型社会の実現に貢献する人材の育成と研究の推進」をビジョンに掲げ、DRI(デザイン・レジリエンス・インフォマティクス)教育に注力し、大学全体として地域貢献を進めています。

そんな中、大学院地域マネジメント研究科は、中国四国地方で唯一のMBAが取得できる経営系専門職大学院として発足し、国立大学法人としては全国で4番目に開校したビジネススクールです。大学基準協会による経営系専門職大学院の認証を受け、要求される研究教育水準を満たしているという評価結果をいただき続けてきました。設立された当初としては珍しく、地域活性化に貢献する教育・研究に、他大学に先んじて焦点をあてた初めてのビジネススクールであり、歴史を刻み続けた結果、そのことが他に類を見ない特徴となり、この春には無事22期生を迎えています。本研究科には、早くから地域活性化のための教育研究に取り組み、切り開いてきたパイオニアとしての自負があり、学生と教員が共に培ってきた経験の蓄積は大きな財産となっています。修了生は600名を数えるまでになり、それぞれが現場で目覚ましい活躍をされています。今後さらに、地域活性化への取り組みを加速させ、その成果をより大きく、発展させなくてはなりません。具体的には、香川大学全体として、地域におけるアントレプレナーシップの促進や、世代を超えてのリカレント教育への注力など、過去21年間取り組んで来た経験とネットワークを最大限に活かし、さらに地域貢献に注力して参ります。

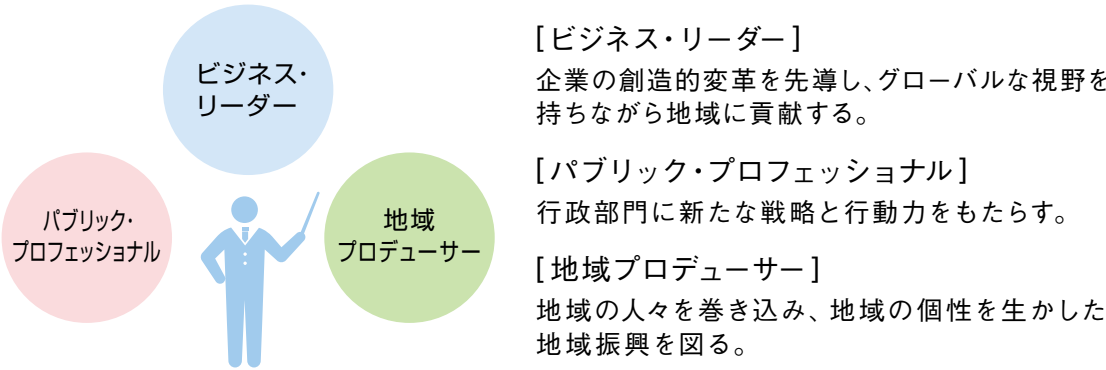
学生の多くは昼間に仕事をしながら熱心に学ぶ社会人です。最近は女性の割合が増加傾向にあるとともに、世代、業種という点でも、多様性がますます広がっています。本研究科は、地域活性化を主体的にリードする人材を育成するというミッションの下、民間企業のような営利組織だけでなく、自治体や行政機関、NPO法人や、学校、病院といった非営利組織の方々、経営者や幹部職員、一般職員、学校長といった、さまざまなバックグラウンドを持つ学生が学ぶ場となっており、貴重なネットワーク形成の場ともなっています。現役学生が修了生も交え、組織の垣根を越え、組織の都合のみに捉われることなく、既存組織や事業の運営のみならず、起業や新規事業、そして地域について語りあり、深く交流、切磋琢磨し合い、充実した2年間の学生生活を送ることができる場となっています。協力し合える仲間が見つかり、学生同士による地域活性化のプロジェクトが創発される土壌が育まれています。

2年間の正規プログラム修了により、MBA(Master of Business Administration) と称する経営修士(専門職)の学位が授与されます。修了生は地域のリーダーとして、必ずしも地域の枠に捉われることなく、活躍することが期待されます。あるいは、大学に新たに誕生した創発科学研究科の博士後期課程への進学もありえます。香川大学大学院地域マネジメント研究科で学び、人生の新たなページを開いて欲しいと思います。

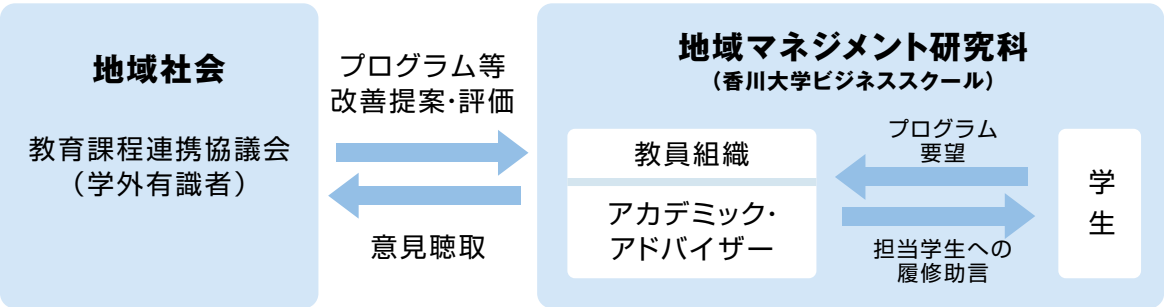
地域マネジメント研究科の概要

学位名称	経営修士(専門職) MBA (Master of Business Administration)
学生定員	入学定員 30名 / 収容定員 60名
授業時間	昼夜開講 平日(月曜日～金曜日)の夜間の授業時間帯 第1時限/18:20～19:50 第2時限/20:00～21:30 また土曜日にも授業を行うとともに、夏季などの休業期間に 集中講座を実施し、社会人に都合のよい時間割に配慮します。 さらに、自習サポートシステムを整備し、勉強の便宜を図ります。
標準修業年限	2年
修了要件	40単位以上の取得

養成する人材像



学生と地域に開かれた組織



教育課程連携協議会では、地域社会の期待や要請を研究科内のカリキュラムに反映させるため、毎年、地元を代表する経済界・行政の有識者と本研究科教員との意見交換会を開いています。

アドミッション・ポリシー（学生受入方針）

求める学生像（入学者に求める学力・能力・資質等）

大学院入学までに、以下のような学力・能力・資質等を備えていることを求めています。

- 1. 知識・技能・理解力
4年制大学卒業相当の者が身につけているべき一般的な能力（特定の分野の知識や技能は求めない）
- 2. 思考力・判断力・表現力
地域活性化に関する諸課題を論理的に考え、他者に説明できる表現力・コミュニケーション能力
- 3. 応用力
地域活性化に関する諸課題から、自身が関心を寄せるものに焦点を当て、課題が生じる原因やそれを解決する社会的意義等を整理する力
- 4. 探求心・意欲・態度
地域活性化に関する諸課題に主体的に取り組み、多様な人々と協働して学び、地域に貢献しようとする高い志・意欲・態度
- 5. 倫理観・社会的責任
地域活性化に貢献することを志す者が持つべき倫理観とその社会的責任を理解できる能力
- 6. グローバルマインド
地域活性化に関する諸課題を、単に当該地域や国内で閉じた問題として捉えず、国際社会の中での問題として捉えようとする志向性

入学者選抜の基本方針

一般選抜

一般選抜は、社会人経験の乏しい4年制大学卒業相当の学位を有する者について、「ビジネス・リーダー」「パブリック・プロフェッショナル」「地域プロデューサー」を目指す上で必要な学力・能力・資質等を見ることを目的としています。小論文では、4年制大学卒業相当の者が身につけているべき一般的な能力、理解力、思考力（着眼点および論理性）、表現力を評価します。面接では提出書類を参考にしながら、思考力（着眼点および論理性）、理解力、応用力、コミュニケーション能力、地域活性化に貢献することを志す意欲や倫理観、グローバルマインドを評価します。

社会人選抜

社会人選抜は、十分な社会人経験および4年制大学卒業相当の学位を有する者について、「ビジネス・リーダー」「パブリック・プロフェッショナル」「地域プロデューサー」を目指す上で必要な能力・資質等を見ることを目的としています。面接では提出書類を参考にしながら、思考力（着眼点および論理性）、理解力、応用力、コミュニケーション能力、地域活性化に貢献することを志す意欲や倫理観、グローバルマインド、および社会的実績を評価します。

ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）

香川大学大学院地域マネジメント研究科では、その教育理念に基づき、地域活性化に貢献する上で必要な基礎及び専門知識を理論と実践のバランスを図りながら体系的に修得し、地域活性化に貢献できるプロジェクトや調査を企画・実行・発表する「総合力」を身につけ、高い倫理観と社会的責任のもと、国内外におけるマネジメントや地域政策の現場で活躍できる幅広い能力を備えた人材を育成します。具体的には、企業におけるビジネス・リーダー、行政におけるパブリック・プロフェッショナル、地域資源を活かして活性化を図る地域プロデューサーなど、地域新時代を拓くプロフェッショナルを養成することを目指します。本研究科を修了し、本学が送り出す経営修士（専門職）が身につけるべき能力・態度の到達基準は次のとおりです。

- 1. 専門知識・理解
定性的・定量的・数理的的分析能力：社会一般の問題を定性的・定量的・数理的に分析し解決することができる。
基礎力：マネジメントで必要とされる基礎的知識及びその獲得能力を有している。
地域問題発見能力：四国地域を客観的に把握し当該地域が抱える具体的問題を見つけ出す能力を有している。
- 2. 研究能力・応用力
応用力：地域活性化に貢献する上で必要な専門知識を理論と実践のバランスを図りながら体系的に修得し、その知識を個別分野及び個別地域における様々な課題に投影する際に必要となる応用的能力を備えている。
実践的課題解決能力（総合力）：地域活性化に貢献できるプロジェクトや調査を自ら企画・実行・発表するための実践的な課題解決能力（総合力）を備えている。
- 3. 倫理観・社会的責任
地域活性化に貢献する専門の人材として、高い倫理観と地域の企業や行政が果たすべき社会的責任に関する自覚と理解を備えた上で、課題解決に必要な戦略や政策を立案・実行することができる。
- 4. グローバルマインド
地域資源を活用し発展させ、地域全体の活力を向上させるため、グローバルな視野に基づいた政策及び戦略を立案し提案できる能力を備えている。

カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成・実施方針）

香川大学大学院地域マネジメント研究科では、学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に示した人材を育成するために、分析基礎科目（4単位以上）、基礎科目（「研究倫理（1単位必修）」を含む10単位以上）、地域基礎科目（4単位以上）、応用科目（自由選択）、プロジェクト科目（8単位必修）から構成される教育課程を編成・実施します。修了要件は上記科目40単位以上の修得およびプロジェクト研究の審査に合格することです。なお、大学院教養科目に相当する科目が基礎科目及び地域基礎科目に設定されています。地域マネジメント研究科では、地域活性化に貢献できる人材を養成するため、理論と実践のバランスを図りながら、多様な個別のニーズに柔軟に対応できる体系的なカリキュラムを構築しています。入学時から修了時まで、学生一人ひとりの研究・教育上の相談相手となるアカデミックアドバイザー（2年次：プロジェクト科目担当教員）を複数割り当て、支援を行うことで、学生の多様な問題意識や目的に対応した履修計画を適切にカスタマイズできる体制を構築しています。ディプロマ・ポリシーの各項目の達成は、以下に示した大学院教養教育科目を含む体系的教育をもって実現します。

- 1. 専門知識・理解
「社会一般の問題を定性的・定量的・数理的に分析し解決する能力（定性的・定量的・数理的的分析能力）」「マネジメントで必要とされる基礎的知識及びその獲得能力（基礎力）」「四国地域を客観的に把握し当該地域が抱える具体的問題を見つけ出す能力（地域問題発見能力）」は、それぞれ「分析基礎科目」「基礎科目」「地域基礎科目」により修得することができます。
- 2. 研究能力・応用力
第1年次から第2年次の間、応用科目を通じて、地域活性化に貢献する上で必要な専門知識を理論と実践のバランスを図りながら体系的に修得し、その知識を個別分野及び個別地域における様々な課題に投影する際に必要となる応用的能力（応用力）を身につけます。また、第2年次に配置されたプロジェクト科目を通じて、地域活性化に貢献できるプロジェクトや調査を自ら企画・実行・発表するための実践的な課題解決能力（総合力）を修得します。
- 3. 倫理観・社会的責任
本研究科の授業科目には、いずれも社会的要請に基づき、企業・行政が持つべき倫理観と社会的責任に関する内容が基本前提として取り入れられています。基礎科目の「研究倫理」に加え、その他の授業を幅広く履修することで、高い倫理観及び社会的責任に関する自覚と理解を踏まえつつ、地域活性化に貢献するための課題解決に必要な戦略や政策を立案・実行する能力を身につけることができます。
- 4. グローバルマインド
第1年次から第2年次の間、主に応用科目を通じて、地域資源を活用し発展させ、地域全体の活力を向上させるために必要とされるグローバルな視野に基づいた政策及び戦略を立案し提案できる能力を身につけることができます。

以上の学習成果の評価は、シラバスに記載している方法によって、各授業科目の到達目標の達成度で評価します。プロジェクト科目は、教員全員による評価と指導教員による評価を合わせ総合的かつ厳格な審査を実施し、プロジェクト研究の最終的な可否判定を行います。

取得できる学位

経営修士（専門職） MBA (Master of Business Administration)

特色となる5つのポイント

A 多彩な専任教員・講師

専任教員は、経営領域と、地域科学分野の優れた研究業績を有する研究者教員と、中央省庁・自治体や企業での豊富な経験を有する実務家教員からなります。非常勤講師には、県内外から産官学各界を代表する方々に就任していただいています。行政関係では、四国財務局長などの省庁の局長、香川県知事などの自治体トップ、経済関係では地域企業の経営者、全国企業の支店長など多彩な講師を迎え入れ、さらに地域とタイアップした講義などカリキュラムの充実に努めています。

B 理論と実務の双方向教育

多彩な教員による実務的な科目群、理論的な科目群、そして集大成を図るプロジェクト研究などのカリキュラムについて、理論と実務の双方から教育に取り組みます。またビジネススクールの特性を活かし、ケース教材開発を積極的に推進し、それを活用した教育を行います。

C きめ細やかな少人数教育

専任教員1人あたりの学生数は学年あたり約3人です。学生1人ひとりの問題意識に応じたきめ細やかな指導が可能です。また、専任教員によるアカデミック・アドバイザー制度を設け、学生1人ひとりの学習上の相談に応えます。

D 社会人に便利な教育環境

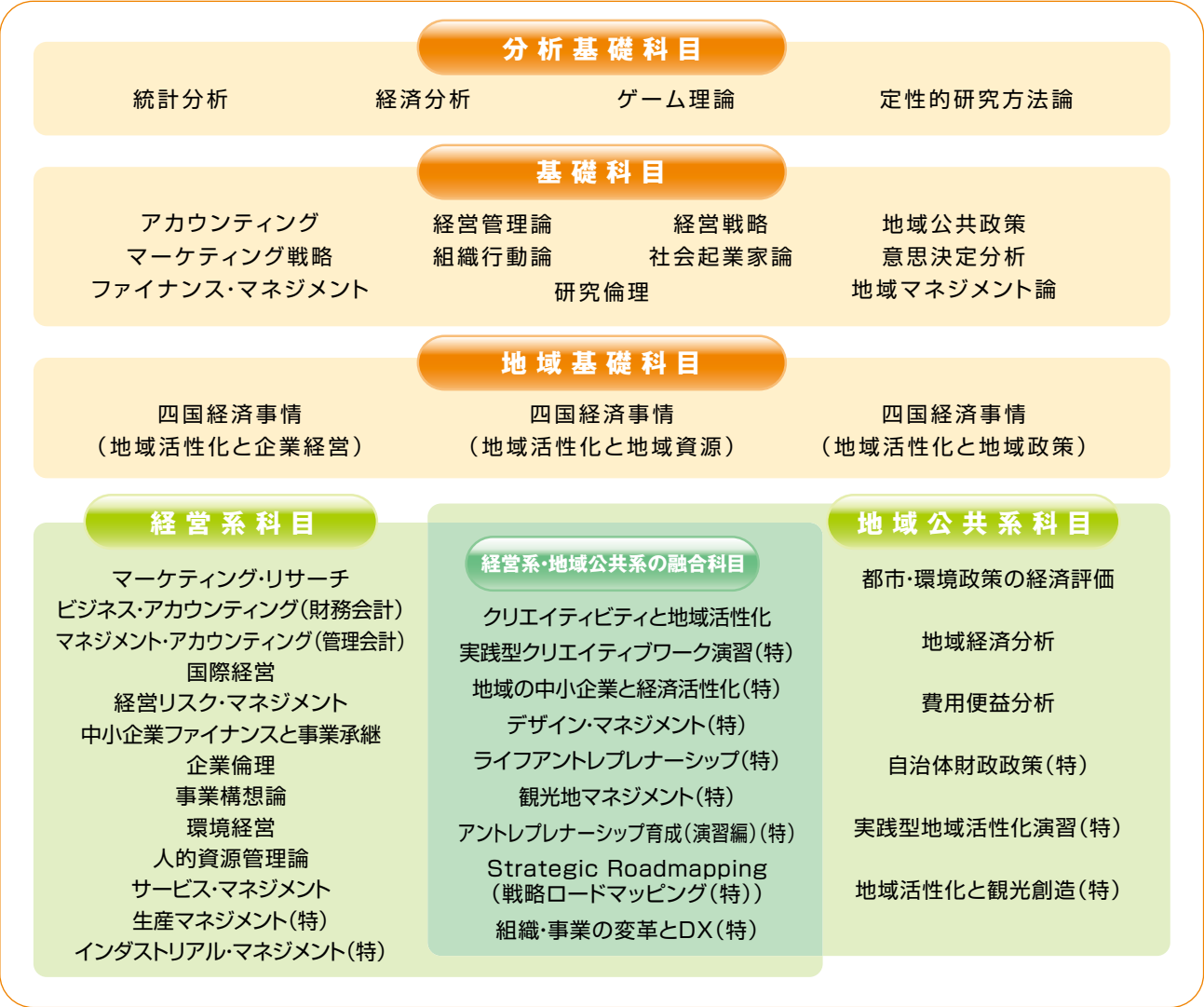
討論が出来るスペースやPCを備えた24時間利用可能な本研究科専用ラウンジとPCルームを整備するほか、一部科目では、遠隔で講義が受講できます。また欠席および復習用に講義収録を行う科目もあり、忙しい社会人が学びやすい環境です。

E 絆を深める多彩なイベント、交流の機会も豊富

いま地域では、民間企業と行政、NPOなど、市民組織の連携が求められていますが、異業種や異分野の人々と顔見知りになる機会は意外に少ないのが現状です。本研究科では多様な業種の社会人が学びの場を通して志を同じくし、学生同士の貴重な人的ネットワークが形成されます。こうした絆は、通常の講義でのグループ単位によるケースディスカッションをはじめ、夏期合宿など、多彩な交流の機会によって育まれます。

地域リーダーを育成する経営・地域公共の融合的カリキュラム

地域活性化に貢献するリーダーを養成するため、本研究科は一般的なMBAに地域の要素を加え、経営系と地域公共系を融合したカリキュラムを構築しています。学生諸氏は、分析基礎科目、基礎科目、地域基礎科目、応用科目などのカテゴリーの中から、各々の問題意識や志向性に沿って科目を選択し、地域の問題を的確に把握し解決する能力や、組織をマネジメントする能力などを身につけます。





教授 研究科長

Masanobu Nakamura

中村 正伸

略歴

〔学 歴〕一橋大学法学部卒(1995)
一橋大学大学院法学研究科修士課程修了(1999)・法学修士
明治大学大学院経営学研究科修士後期課程修了(2014)・博士(経営学)
〔職 歴〕ブライスウォーターハウス・クーパー・コンサルティング(現IBM、1999-2004)
新日本監査法人(現新日本有限責任監査法人、2005)
アルテミス・ビジネス・コンサルティング(2006-2011)
アビームコンサルティング(2011-2014)
香川大学大学院地域マネジメント研究科教授(2019-)

担当授業科目

アカウントینگ
マネジメント・アカウントینگ
研究倫理

アカウントینگでは、会計に期待されている役割を考察します。数年前発覚した内資大手企業や監査法人を巡る会計不祥事を頭の片隅に置く必要はあるものの、そもそも会計の果たす役割について、過去・現在・未来の時間軸で検討したいと思います。マネジメント・アカウントینگでは、その目的である組織のメンバーの「動機付け」を念頭に議論を行います。組織・個々人の責任を明確にして、前向きな気持ちを持たせてやらせてみる、そしてその業績を評価する。その役割を担うのがマネジメント・アカウントینگです。組織は生き残りをかけて変化へ対応する必要があります。そのためにマネジメント・アカウントینگが果たす役割を皆さんと考えたいと思います。

研究テーマ

研究実績・実務業績

プロジェクト組織におけるマネジメント・アカウントینگ、即ち管理会計の役割を研究しています。プロジェクト組織は、特定目的のために編成される臨時組織であり、目的を達成すれば解散します。従来管理会計は、部門と呼ばれる比較的安定的な組織を前提に研究がなされてきました。しかし、製品やサービスのライフサイクルが加速度的に短期化している現代においては、変化に対応して、新しい製品やサービスを継続的に市場に送り出す必要があります。そのために、常に組織の編成・解散を繰り返し臨機応変に対応することになります。そのような活動を有限な資源により遂行していくための会計の役割を研究しています。近年は特に、アジャイル、DXの切り口でも研究を進めています。



教授 副研究科長

Shinji Hara

原 真志

略歴

〔学 歴〕東京大学大学院総合文化研究科博士課程単位取得退学(1995)・修士(理学)
〔職 歴〕香川大学経済学部専任講師(1995-1996)、同助教授(1996-2004)
香川大学大学院地域マネジメント研究科助教授(2004-2007)、同准教授(2007-2010)
同教授(2011-)、カリフォルニア大学ロサンゼルス校客員研究員(1998-2000、2011-2012)
香川大学大学院地域マネジメント研究科研究科長(2015-2023)
〔公職等〕「四国八十八景選定委員会」選定部会委員(四国地方整備局)、「映像コンテンツ・ビジネスモデル研究会」委員(経済産業省)、広域周遊観光促進四国地域連絡調整会議(四国運輸局)
香川県産業成長戦略に関する懇談会委員、三豊市総合計画審議会委員長
香川ビジネス&パブリックコンベ実行委員長、Setouchi-i-Base アドバイザーなど

担当授業科目

地域マネジメント論
クリエイティビティと
地域活性化
ライフアントレプレナーシップ

[地域マネジメント論]地域のマネジメントには何が求められるか?企業にとって地域の意味は何か?地域の様々な課題を解決するポイントは何か?ネットワーク・知識創造・リーダーシップ・クリエイティビティ・信頼・エフェクチュエーションなどのテーマを、ケースと理論の両面から考えます。地域活性化に取組む際に共通して必要な考え方を身につけ、本物の実践的思考力を養う場を提供します。[クリエイティビティと地域活性化]地域の隠れた魅力に光をあて、地域の要素を効果的に組み込んだ深いストーリーの映画脚本作成と、映画と地域資源のコラボによるビジネスプランの作成により、個性あるクリエイティビティを発揮しての地域活性化を目指します。[実践型クリエイティブワーク演習]地域映画や地域版ブランデッドコンテンツの脚本を練り上げる実践的演習を行います。

研究テーマ

研究実績・実務業績

徹底した現場主義と、定性・定量の両方を用いる複眼的アプローチが持ち味で、クリエイティビティと異なる知識の融合を対象にしています。アメリカのロサンゼルスにあるUCLAで1998年から1年半研究して以来、ハリウッド映画産業に関する現地調査に基づく研究を進め、日本の映画・アニメ産業との比較分析を行っています。さらに香川、四国、瀬戸内の地域活性化に関して、1) 瀬戸内の島嶼部を対象にした地域活性化の研究、2) 地域におけるアントレプレナーシップや地域から国際展開を狙うアントレプレナーシップの研究、3) 香川漆器など伝統産業の国際化に関する研究、そしてMBAならではの研究と実践をつなぐ取組みに力を入れています。



教授

Takanori Osaki

大崎 孝徳

略歴

〔学 歴〕九州大学大学院経済学府企業産業システム専攻修士後期課程修了(2005)・博士(経済学)
〔職 歴〕トヨタ自動車(株)(1993-1995)
長崎総合科学大学工学部専任講師(2000-2002)助教授(2003-2005)
名城大学経営学部助教授(2005-2007)准教授(2007-2010)教授(2010-2018)
ワシントン大学客員研究員(2007-2008)
デ・ラ・サール大学特任教授(2018-2020)
神奈川大学経営学部教授(2020-2023)
香川大学大学院地域マネジメント研究科教授(2023-)

担当授業科目

マーケティング戦略
マーケティング・リサーチ
研究倫理

[マーケティング戦略]マーケティングを戦略的に実行していくための考え方および手法について学びます。具体的には、マーケティング戦略の基礎となる事業戦略および競争地位別戦略、STP、マーケティング・ミックス(商品・価格・流通・プロモーション)戦略について検討します。さらに、近年注目される「消費者との関係性」「ブランド」「グローバル」「社会」といったキーワードと関わるマーケティングの戦略の実行に関して理解を深めます。
[マーケティング・リサーチ]マーケティングの意思決定を支援するために必要な情報の収集・分析について学びます。具体的には、マーケティング・リサーチの概念、プロセス、定性・定量調査、消費者ニーズの把握、新製品・サービス開発など、実践的なテーマを取り上げます。

研究テーマ

研究実績・実務業績

これまで「ICTを活用した消費者との関係性構築」、「携帯電話端末の国際マーケティング」といった研究テーマに取り組んできました。現在は「価格競争を回避するための商品・サービスの高付加価値化(プレミアム化)」というテーマに取り組んでいます。コスト優位性に劣る日本企業にとって重要なテーマであると考えています。こうした研究から得た知見を活かし、今後は「地域産品のマーケティング戦略」について、生産者・流通業者・地方自治体への個別訪問面接調査、消費者への質問票調査などを通じて探究していきます。



教授

Seiko Taki

滝 聖子

略歴

〔学 歴〕岡山大学大学院自然科学研究科博士後期課程修了(2006)・博士(工学)
〔職 歴〕首都大学東京(現:東京都立大学)システムデザイン学部研究員・助教(2006-2013)
千葉工業大学社会システム科学部 准教授(2013-2019)、教授(2019-2024)
千葉工業大学情報変革科学部 教授(2024-2025)
日本マテリアルフロー研究センター 学術研究員(2020-)
香川大学大学院地域マネジメント研究科 教授(2025-)
〔公職等〕日本経営工学会論文誌編集委員(2013-2015,2017-2023)、代議員(2019-2023)、監事(2023-)
Innovation and Supply Chain Management, Editorial Committee Member(2022-)
習志野市長期計画審議会 委員(2019-2025)

担当授業科目

意思決定分析
インダストリアル・マネジメント

[意思決定分析]各組織の管理職・経営者は様々な日々の意思決定を定量的な手法を用いて実行する必要があります。あらゆる組織では常に判断と決断が求められ、間違うと致命的損害を与える場合もあります。情報化社会において、戦略的な意思決定や企画・立案した新規事業の採算性の分析とその評価、リスクの把握、感度分析などを行うためのシミュレーション技法を講義します。
[インダストリアル・マネジメント]インダストリアル・マネジメント(経営工学)とは、経営上の諸問題を発見して解決するための工学的アプローチを基本としたマネジメント技術です。生産・製造だけでなく、現在の様々な形態、サービスに携わる組織も対象に、業務上の無駄を可視化して問題点を把握し、改善するための手法を学びます。

研究テーマ

研究実績・実務業績

情報技術を活用し、人々の労働・生活の質の向上を支援するために、製造業や福祉サービス業等における作業の効率化と負担軽減、熟練技術・技能伝承のための教育などをテーマに研究しています。現場と連携して問題点を把握し、解決するための方法やシステムの提案、実施及び効果の検証を行っています。また、ワークライフバランスの実現を目的として、家庭内作業(家事、育児)の分析と負担軽減のための研究も行っています。
受賞:日本福祉工学会 論文賞(2021)、日本経営工学会 論文賞(2023) 等



教授

Miwa Nishinaka

西中美和

略歴

〔学 歴〕北陸先端科学技術大学院大学 知識科学研究科 博士後期課程修了(2015)・博士(知識科学)
慶應義塾大学大学院 経営管理研究科 経営管理専攻修了(2001)・修士(経営学)
〔職 歴〕日本アイ・ビー・エム(株)(1986-2014)
北陸先端科学技術大学院大学知識科学研究科 研究員(2015-2016)
総合研究大学院大学 特任准教授(2016-2019)
香川大学 大学院地域マネジメント研究科 教授(2019-現在)
香川大学 大学院創発科学研究科 教授(2024-現在)
〔公職等〕研究・イノベーション学会 業務理事(2018-2021)、業務委員(2021-2024)、評議員(2024-現在)
日本ナレッジ・マネジメント学会 学会誌編集委員(2020-現在)、編集長(2024-現在)
香川県職業能力開発審議会 会長(2019-現在)
国土交通省四国地方整備局入札監視委員会委員(2024/4-現在)

担当授業科目

経営戦略
サービス・マネジメント
Strategic Roadmapping
四国経済事情
(地域活性化と企業経営)

〔経営戦略〕組織が価値を創出し将来展望を考える上で重要な、事業定義の考え方、競争優位を築くための戦略、コア・コンピタンス等に関わる、代表的な経営戦略の理論とフレームワークを、実際の事例を交えながらの講義や、討議を通じて体系的に習得できます。
〔サービス・マネジメント〕価値共創、ウェルビーイング、ホスピタリティ、共感、信頼等、サービスシステムを構築するために必要な代表的理論と方法論を、事例や演習を通じて体系的に習得できます。
〔Strategic Roadmapping〕ロードマッピングは、社会との関りを戦略的・俯瞰的に考え、将来にわたる流れを可視化するための手法です。組織間での認識合わせや意思統一などにも使用されます。この手法により様々な計画の作成ができます(英語授業)。

経営資源として重要な知識資源の中でも、特に、暗黙的知識をコア・コンピタンスと位置づけ、その知識が表出化・明確化され、組織的知識となってゆくプロセスの概念モデル化・方法論化の研究を行っています。知識のつながりは価値を生み出すため、対象範囲を地域に拡張し、持続的価値共創によるウェルビーイングを目指すためのモデル形成に関わる研究も進めております。具体的には、観光地の組織における知識の流れが住民の認知と地域の変化に与える影響の研究です。他、企業や地域の将来展望を検討するためのロードマッピングやSFプロトタイピング手法の研究を行っています。
受賞:第8回知識共創フォーラム 論文共創賞受賞(2019年3月)
Outstanding Paper Award at the 17th International Conference on Knowledge, Information and Creativity Support System (2022年12月)
Best Paper Award at the Human Side of Service Engineering, AHFE 2024 International Conference (2024年7月)

略歴

〔学 歴〕慶應義塾大学経済学部卒業(1986)、早稲田大学大学院ファイナンス研究科修了(2006)・ファイナンス修士、京都大学経済学博士(2012)
〔職 歴〕第一生命保険相互会社(1986-2001)、日経QUICK情報㈱(2001-2007)、立命館大学大学院経営管理研究科教授(2007-2017)
一般社団法人高度人材養成機構理事長(2017-2020)
香川大学大学院地域マネジメント研究科教授(2020-)
〔公職等〕日本FP学会理事、生命保険経営学会、日本商工会議所・金融事情研究会主催DCプランナー認定制度企画委員、日本証券アナリスト協会主催プライベートバンキング試験制度試験委員、日本証券アナリスト協会主催資産形成コンサルタント教育委員、香川大学金融証券研究会顧問、日本ベンクラブ会員、金融経済教育機構認定アドバイザー(2024-)

教授

Hidekazu Miyoshi

三好秀和

担当授業科目

ファイナンス・マネジメント
中小企業ファイナンスと
事業承継

ファイナンス・マネジメントの講義対象は企業です。企業経営と金融・資本市場とがどのような関わりをもって経済活動をおこなっているのかを検討します。初学者向けの基本科目であることを踏まえてファイナンスの基本概念が身に着くように講義します。
中小企業ファイナンスと事業承継は応用科目です。企業の生成から成長、発展し、株式を公開し上場するまでをファイナンスの3つ(自己資本、借入、ベンチャーキャピタルによる出資)の観点から検討します。受講生は自らシミュレーション上の起業をしながら企業の成長プロセスが体感できます。その成長過程でコーポレートファイナンスの主要な技法を学ぶことができます。さらに、中小企業の課題である事業承継の方法論を学びます。

研究テーマ

研究実績・実務業績

これまで資産運用業の研究をおこなってきました。現在はリーマンショック以降、少子高齢化による人口オーナス社会の中で誇り高く調和のとれた共生社会を生み出すために、金融が果たす役割は何かを研究しています。キーワードを示せば、個人の視点ではリタイアメントプラン、リバースモーゲージ、企業の視点では働き方改革、事業承継、金融の視点では地域創生ファンド、地域通貨、そして、財政の視点では、共生社会の実現、民生費、社会保障費、地方への税移譲、シェアリングエコノミーです。学術的な貢献に留まることなく地域で実践的に役立つことが必要であると考えています。



教授

Yasuyo Yoshizawa

吉澤康代

略歴

〔学 歴〕慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科後期博士課程修了
〔学 位〕政策・メディア 博士(慶應義塾大学)(2009)
〔職 歴〕株式会社ヒューマンルネッサンス研究所(1996-2005)、株式会社コーポレイトユニバーシティプラットフォーム(2006-2010)、慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科特任講師(常勤)(2010-2013)、香川大学大学院地域マネジメント研究科専任講師(2013-2017)
香川大学大学院地域マネジメント研究科准教授(2017-2024)、香川大学大学院地域マネジメント研究科教授(2024-)
〔公職等〕香川県行政経営推進会議(旧行政改革推進会議)副議長(2019-)、人材育成学会役員編集委員会委員(2020-)、丸亀市行政改革推進委員会委員長(2021-)、厚生労働省「地域雇用活性化推進事業」地域雇用活性化支援アドバイザー(2021-)、高松市自治推進審議会委員(2021-)、人材育成学会常任理事(2025-)

担当授業科目

組織行動論
人的資源管理論
アントレプレナーシップ育成
(演習編)

グローバル、ダイバーシティが進展する中、多様な「人」といかに向き合い、組織力を高めていくのか。次世代のマネジメントに求められる視点です。そのような「人」に焦点を当てた科目が「組織行動論」「人的資源管理論」です。いずれの科目も理論だけでなく、ケースをもとにディスカッションやグループワークを通じて学んでいきます。実践から学ぶ「アントレプレナーシップ育成」にも携わっています。
〔組織行動論〕個人、集団、組織が陥りやすい課題を整理し、個人の意識・態度・行動(パーソナリティ、コミュニケーション、コミットメント、リーダーシップなど)を活性化し、その集合体となる組織の成果(組織風土、組織変革など)をいかに高めていくのかについて考えます。
〔人的資源管理論〕人材マネジメントの古典的な機能は「序列」「評価」「報酬」「配置・異動・昇格」「教育・開発」です。これらの機能は経営のカスケーディング、すなわち組織の「ミッション」「ビジョン」「方針」「戦略」の流れを汲んで運用される必要があり、それを「戦略的人的資源管理」と言います。人材マネジメントの機能を理解し、戦略的人的資源管理について考えます。

研究テーマ

研究実績・実務業績

「個人と企業組織の関係性(組織コミットメント、組織風土、モチベーションなど)」「働き方」「キャリア」を研究領域とし、これまで「テレワーク」「ワーク・ライフ・バランス」「ダイバーシティ」などを扱ってきました。最近では「ライフキャリアにおけるワークモチベーションのダイナミズム研究」「ケースメソッド研究会」「キャリアワークショップ」に力を入れています。モチベーションの主要理論は若年成人を対象に精緻化され、少子高齢化が進む中、その説明力に限界がきています。生涯現役社会に向けて中高年成人のモチベーション理論の構築を目指しています。

略歴

〔学 歴〕慶應義塾大学商学部卒業(2002)
慶應義塾大学大学院商学研究科博士前期課程修了(2005)
東北大学大学院経済学研究科博士課程後期3年の課程修了(2012)・博士(経営学)
〔職 歴〕東北大学大学院経済学研究科博士研究員(2012-2015)
香川大学大学院地域マネジメント研究科准教授(2015-)

准教授

Katsunori Sato

佐藤勝典

担当授業科目

社会起業家論
地域活性化と観光創造
四国経済事情
(地域活性化と地域資源)

〔社会起業家論〕現代社会では、貧困、ニートや障害者など社会的弱者に関する様々な社会的課題が起きている。これらの課題をビジネスの手法を用いて収益を上げながら事業性を兼ね備えて解決しようとする社会起業家に注目して理論と実態の両面から講義を行う。
〔地域活性化と観光創造〕四国ツーリズム創造機構と四国経済団体連合会の提供講義である。四国各地を中心として観光関係で活躍するゲストスピーカーに講演してもらう。その後、講演をもとにディスカッションを行うことで、受講生の理解を深め、地域社会や所属する組織での活用を検討する。

研究テーマ

研究実績・実務業績

社会的企業が地域コミュニティにどのような影響を与えるのか、社会的弱者をどのように包摂していくのかについて関心を持っている。これまで、中山間地域のコミュニティビジネスや東日本大震災の被災当事者による社会的企業をテーマとして研究を実施してきた。現在は、瀬戸内の地域コミュニティでの社会的企業と障害者のライフタイムの視点に立った就労移行支援などの社会参加をテーマとして研究している。

専任教員



准教授

Tetsuya Shimane

島根 哲哉

略歴

〔学歴〕東京工業大学大学院理工学研究科修士課程修了

〔職歴〕麗澤大学国際経済学部助手（1996-1998）

東京工業大学大学院情報理工学研究科助手・助教（1998-2016）

学習院大学政治学研究科非常勤講師（2005-2008）

上智大学経済学部非常勤講師（2010-2019）

東京工業大学工学院助教（2016-2019）

香川大学大学院地域マネジメント研究科准教授（2019-）

担当授業科目

統計分析
都市・環境政策の経済評価

〔統計分析〕個人の経験のみによらない客観的な“事実”を理解することが、様々な場面で求められています。“事実”を見つけ出すためには、集めたデータを統計学的な観点から分析することが有用です。この講義では、サンプルデータを分析する実習を交えて、統計学の基礎を理解し、実践的な分析スキルの獲得を目指します。

〔都市・環境政策の経済評価〕事実に基づいた判断が、政策決定や経営判断の場で重視されつつあります。そのためには、理論的な知見に基づいて問題をモデル化することと、政策がもたらす結果の変化を明らかにするために定量的にデータで分析を行うことが必要です。この講義ではいくつかの都市・環境政策について経済学モデルを通じて考察し、その成果を定量的に評価する方法を学びます。

研究テーマ

研究実績・実務業績

計量経済学の方法を用いて、個人や企業などの意思決定の実証的経済分析に取り組んでいます。特に空間的に影響を受けるモデルや離散的な選択を扱うモデルに関心を持っています。

分析の対象はあまり限定せず、企業の市場参入や女性の労働参加、環境政策の評価など広く取り組んでいます。



准教授

Kohei Nagamachi

長町 康平

略歴

〔学歴〕東京大学大学院経済学研究科博士課程単位取得退学（2012）・博士（経済学）

〔職歴〕日本学術振興会特別研究員DC2（2010-2011）

横浜国立大学経済学部非常勤講師（2011-2013）

東京大学大学院経済学研究科助教（2012-2013）

京都大学経済研究所非常勤講師（2014）

香川大学大学院地域マネジメント研究科准教授（2014-）

〔公職〕経済産業研究所・地域経済プログラム・プロジェクトメンバー（2013-2017）

東かがわ市基本構想審議会会長（2022-2023）

東かがわ市総合戦略審議会会長（2024-）

担当授業科目

経済分析
地域経済分析
四国経済事情
（地域活性化と地域政策）

〔経済分析〕家計・企業等の経済主体の意思決定問題とそこから派生する市場・非市場における諸現象を分析対象とするミクロ経済学を体系的に学びます。経済学の基礎であるミクロ経済学を学ぶことで経済学の応用分野へ進む基礎力を提供すると同時に、経済情勢や経済政策の意義・必要性を大局的な視点から理解する能力を身につけます。

〔地域経済分析〕地域（都市を含む）の経済活動を分析するための経済学を学びます。具体的には、なぜ都市が存在するのか、都市の人口規模はどのように決まるのか、といった基本的内容やその他地域の経済活動を理解する際に役立つ視点を学びます。また、都市が世界の貿易拠点である点を考慮し、国際貿易についても経済学的視点から学びます。

研究テーマ

研究実績・実務業績

経済活動の空間分布の決定メカニズムとそれが経済成長・格差、社会厚生にもたらす影響を空間経済学、都市経済学、マクロ経済学等の分析手法を用いて主に理論的・数量的に分析しています。これまで、知識労働者の地理的集中、情報通信技術の発達によるフラグメンテーションと都市の機能的特化、多様な産業・職業・職務が存在する中での都市の階層性、人工知能が都市システムに与える影響を研究してきました。

専任教員



准教授

Motonori Matsushita

松下 元則

略歴

〔学歴〕中央大学大学院総合政策研究科修士課程修了（2000）・修士（総合政策）

一橋大学大学院商学研究科博士後期課程単位取得退学（2007）

〔職歴〕中央大学研究開発機構準研究員（2000-2003）

函館大学商学部専任講師（2007-2009）

函館大学商学部准教授（2010-2011）

福井県立大学経済学部准教授（2012-2024）

香川大学大学院地域マネジメント研究科准教授（2025-）

担当授業科目

経営管理論
定性的研究方法論

〔経営管理論〕経営管理論は、組織の管理・運営を研究する学問です。この講義では、組織の構造に注目するマクロ組織論を中心に、組織を管理する際に必要となる経営管理論の基本的な知識を解説します。

〔定性的研究方法論〕定性的研究では、インタビューや参与観察、歴史資料等から、文章が中心となっているデータを集めて、日常言語に近い言葉による記述と分析を行います。この講義では、実習を交えながら、フィールドワークなどの定性的研究の方法を解説します。

研究テーマ

研究実績・実務業績

「食」と関連のある経営現象に関心があります。以前は、中国における日本の食品メーカーの戦略について研究していました。現在は、日本各地のバル・イベントのルーツである「函館西部地区バル街」の事例研究に基づいて、地域の文化や景観を活かした飲食イベントのマネジメントと、飲食イベントが開催地域や地域住民に及ぼす影響について研究しています。

特任教員



特命教授

Kiyoyuki Hirokawa

廣川 淨之

略歴

〔学歴〕明治大学政治経済学部経済学科卒業（1986）

〔職歴〕東京国税局（1986-1988）

横須賀市役所（1988-2024）

（企業会計（水道・病院）、財政、行政組織、行政改革、公営住宅、都市計画）

香川大学大学院地域マネジメント研究科特命教授（2025-）

担当授業科目

自治体財政政策
地域公共政策
実践型地域活性化演習

〔自治体財政政策〕地域活性化に大きな役割を果たす自治体の基盤となる財政制度について、国と自治体との財源をめぐる課題や各自治体の予算編成手法、チェック機能などの財政運営について学ぶとともに、身近な自治体の財政指標について分析します。

〔地域公共政策〕地方創生が提唱されて10年、これまで取り組まれてきた公共政策に係る諸制度や社会動向を踏まえ、あらためて地域の現状分析を行うことで課題を客観的に認識するとともに、具体的な事例も参考にしながら公共政策の取り組みについて探求します。

〔実践型地域活性化演習〕国や自治体の地域活性化策を把握した上で、香川県や四国地域での活性化に取り組む事例や課題を取り上げ、事業者や団体等とのディスカッションや交流を通して課題解決方法について考察するとともに、実践的な検討も行っていきます。

研究テーマ

研究実績・実務業績

自治体の公共施設は老朽化が進行しこれまでどおりの維持管理や更新が難しくなっています。これからは単に自治体単位で考えるだけでなく、より大きなエリアで、また平時だけでなく災害時のことも併せて施設の存在意義を考えていく必要があります。特に各自治体の福祉政策や住宅政策として位置づけられてきた公営住宅も、大規模災害時にはより広範囲にわたっての重要な社会インフラとして認知されるようになりました。災害時も含めた公共施設のあり方や施設の更新手法について研究しています。

特命教員



特命教授

Yasushi Yamamoto

山本 靖

略歴

〔学 歴〕慶應義塾大学工学部卒業
早稲田大学大学院アジア太平洋研究科修士課程修了 国際経営学修士
早稲田大学大学院アジア太平洋研究科博士後期課程修了 博士(学術)

〔職 歴〕総合商社大倉商事(株)勤務後、日本と米国でシリアル・アントレプレナーとして起業多数
ジーダット(JASDAQ 3841)、オリックス・キャピタル、プライムゲート、PALTEK(東証2部7587)
その他企業の社外役員や顧問就任。千葉工業大学非常勤講師、東海大学非常勤講師
香川大学大学院地域マネジメント研究科特命教授(2021-)

〔公 職〕日本システムデザイン学会理事

担当授業科目

国際経営
事業構想論

〔国際経営〕香川県を含む四国地方の企業の課題の一つは、海外展開とグローバル・ビジネスをいつ、どうやって進めるのかという点にあります。このチャレンジに必要な国際経営における経営理論ならびに海外進出時のプロセスや意思決定について学びます。国際社会で活躍できかつ企業・組織内で活用できる教養とマネジメント能力を身に付けます。

〔事業構想論〕起業家活動、ベンチャー企業経営、ファミリービジネス、産官学連携、事業再生、スピンオフ、NPO、起業家精神の背景にある米国哲学等のケース・メソッドによる学習、ゲスト講師の講話から新しい知識獲得、理論書の輪読等を通じて、ビジネスプランあるいは小論文を論述できる能力、学会で研究発表できる能力を身に付けます。

研究テーマ

研究実績・実務業績

実務家としてエレクトロニクスやソフトウェア産業で民間企業の経営管理に従事してまいりました。また日米でベンチャー企業を設立し、経営責任者としてオペレーションを経験しております。経営管理、システム設計、プロジェクト管理、ビジネス上の意思決定や交渉、企業倫理、中小企業・ベンチャー企業のガバナンスをテーマに研究や執筆活動を行っています。

受賞:「製品開発工程におけるイタレーションによる負荷とリスク・アセスメントに関する研究」日本設計工学会論文誌 平成17年度論文賞受賞



特命准教授

Yasuyuki Tokukura

徳倉 康之

略歴

〔学 歴〕法政大学法学部法律学科(2002)、香川大学大学院地域マネジメント研究科(2018)

〔職 歴〕大学卒業後大手日用雑貨メーカーにて営業職として10年勤務後、NPO法人ファザーリング・ジャパン事務局長としてNPOの組織運営に関わり、現在は副代表理事。
株式会社ファミリーエ代表取締役、たかまつ男女共同参画ネット理事長、高松市男女共同参画センター長などを務めている
香川大学大学院地域マネジメント研究科特命准教授(2025-)

〔公 職〕内閣府男女共同参画計画実行・監視専門調査会専門委員、第6次基本計画策定専門調査会委員ほか、厚生労働省イクメンプロジェクト推進委員、子ども家庭庁子ども・子育て支援等分科会委員など

担当授業科目

ライフアントレプレナーシップ

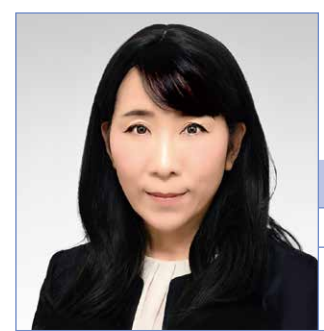
本講義では地域特性、課題解決、経営者個人の思考、経営の継承等により「新しいスタイルの経営者」の存在が散見されるようになりました。そこでこの新しいスタイルの経営者を「ライフアントレプレナー」ととらえ、地域における起業・創業・複業・継承の在り方を学び、起業家マインドやそれを支える地域リーダーの養成を目指します。このライフアントレプレナーとは「個人のライフ(生活)から社会にイノベーションを起こし、自分と周囲の人生を豊かにそして満足できるものに変える起業家。成熟社会においての起業家タイプの一つ」と定義し授業を進めます。授業では実際の経営者をお招きし、事業内容の説明はもちろんの事、院生との対話の時間を取り率直な議論を交わす事も想定しています。

研究テーマ

研究実績・実務業績

女性医師の就労継続要因・個人、組織の働き方改革・組織のマネジメント、男女共同参画、男性の育児参画等を主な領域とし、経営する会社事業としては企業・自治体・大学・高校・医療機関等での研修・講演、セミナーに加え自治体委託事業、個別企業に対する働き方関連コンサルティングを行う。またNPO法人理事長として「高松市男女共同参画センター」の運営責任者も務めている。

特命教員



特命講師

Miki Nishimura

西村 美樹

略歴

〔学 歴〕香川大学大学院地域マネジメント研究科(2018年3月修了)

〔職 歴〕日本公認会計士協会四国会事務局長(-2019)、瀬戸内海食ラボ代表(2019-)
香川大学大学院地域マネジメント研究科 産官学連携研究員(2021-2022)
香川大学大学院地域マネジメント研究科 特命講師(2022-)
税理士

担当授業科目

アントレプレナーシップ育成
(演習編)

アントレプレナーシップ育成(演習編)は、地域社会における課題の発見とその解決方策を探るため、フィールドワーク等の体験型学習を通じて、課題の設定、解決方法、そして結果発表等のスキルを身につけていくことでアントレプレナーシップを養成します。2024年度は、地域の持続可能な未来創造をテーマに「瀬戸内海食」をコンセプトとして、民間事業者や自治体などと協力し、地域の食を活用したビジネスや観光コンテンツ造成などによる地域活性化の事業プランを考案します。このアントレプレナーシップ・プログラムは、演習編で提案した企画内容に対して次年度は道場編を開講し、課題解決に必要な戦略や政策を立案・実行することのできる人材の育成を目指します。

研究テーマ

研究実績・実務業績

「瀬戸内海食」の創造による地域活性化。「瀬戸内海食」とは、瀬戸内の伝統的食文化に健康食として研究が進む地中海食のプラス面を取り入れた新しい食文化です。「瀬戸内海食」というコンセプトにより瀬戸内圏での広域な協力体制を構築し、多様化する食の課題や観光のニーズに対して一丸となって対応できる可能性について研究しています。歴史・文化などのストーリーと特産品を掛け合わせた食の開発や地域の気候風土から生まれた食を学び楽しむ体験観光コンテンツ「ジオフード」などの試みを実践しています。

本州四国連絡高速道路(株) 共同研究(2020年9月-2022年3月)「瀬戸内の島旅による地域活性化の研究」・NECソリューションイノベータ(株) 共同研究(2022年12月-2024年3月)「アントレプレナーの事業化プロセスにおけるビジョン形成の知識創造と組織的実践の促進に関する研究」・(株)JTB高松支店 受託研究(2023年9月～2024年1月)「讃岐広島における食の体験観光コンテンツ造成に関する研究」

施設案内

学びの志に応える、充実した学習設備



講義室

特別講義室、第二講義室の2つを専用的に使用しています。特別講義室と第二講義室は、教員と学生との双方向の授業形式に合う設計になっています。2つの講義室とも講義収録システムを含む最新の情報機器を整備しています。プロジェクト演習・研究には演習室を使用します。



24時間学べる環境

地域マネジメント研究科専用のラウンジ(自習室)とPCルームは24時間利用可能となっています。またPCには統計解析ソフト(SPSS)等研究に必要な設備を兼ね備えており、学習意欲に応える環境が整っています。大学図書館は22時まで利用可能です(休業期間・祝日を除く)。

沼田 秀穂	大和大学政治経済学部 教授	國村 年	國村公認会計士事務所 所長
		(2024年度の講師です。)	

担当授業科目	四国経済事情（地域活性化と地域政策）
--------	--------------------

山下 昭史	三豊市長	田口 幸信	総務省 四国総合通信局長
竹内 純一	四国森林管理局長	小山 和久	経済産業省 四国経済産業局長
池田 豊人	香川県知事	佐々木 淑充	国土交通省 四国地方整備局長
児玉 光載	財務省 四国財務局長	河野 順	国土交通省 四国運輸局長
棕田 那津希	一般財団法人自治体国際化協会	大西 秀人	高松市長
大塚 竜	日本銀行高松支店長	伊藤 一幸	Setouchi-i-Baseチーフコーディネーター
仙台 光仁	中国四国農政局次長	中村 正伸	地域マネジメント研究科 教授
栗尾 保和	香川労働局長	(2024年度の講師です。)	

担当授業科目	四国経済事情（地域活性化と地域資源）
--------	--------------------

北川 智博	瀬戸内うどんカンパニー株式会社 代表取締役	穴戸 栄徳	NPO法人遍路とおもてなしのネットワーク 常任理事
多田 善昭宰	多田善昭建築設計事務所 主宰	大南 信也	認定NPO法人 グリーンバレー 理事
山内 康伸	弁理士法人 山内特許事務所 弁理士	畦地 履正	株式会社 四万十ドラマ 代表取締役
大美 光代	特定非営利活動法人 わがこと 代表理事	松木 考和	NPO法人さぬき茶湯文化潜思 理事長 及び Kagawa shitsugei gallery 彩 代表 及び 松木泌尿器科院長
菅 宏司	かすがいジャパン株式会社 代表取締役	山口 仁八郎	株式会社 丸ノ内ホテル 副総支配人兼 総料理長
蟻波 勝	高松丸亀町商店街振興組合再開発担当 高松市大工町・唐屋町地区市街地再開発組合 事務局長	三好 勝則	香川大学 客員教授
大森 研一	合同会社 ウサギマル 代表	笠原 良二	公益財団法人 福武財団 事務局長
		佐藤 勝典	香川大学大学院地域マネジメント研究科 准教授
		(2024年度の講師です。)	

担当授業科目	四国経済事情（地域活性化と企業経営）
--------	--------------------

真鍋 康正	高松琴平電気鉄道株式会社 ことでんグループ代表	中條 博之	香川証券株式会社 代表取締役社長
ニノ宮 敬治	メロディ・インターナショナル株式会社 取締役	西原 義一	香川県信用保証協会 会長
高濱 和則	大倉工業株式会社 代表取締役会長	西牧 世博	四国旅客鉄道株式会社 代表取締役会長
宮崎 誠司	四国電力株式会社 取締役常務執行役員	多田野 宏一	株式会社タダノ 代表取締役会長
槇田 裕	株式会社マキタ 代表取締役社長	小幡 義樹	高松空港株式会社 代表取締役社長
植田 貴世子	株式会社クラッシー 代表取締役	岡 麻知子	三菱商事株式会社 四国支店 地球環境エネルギーチームリーダー
港 義弘	香川県農業協同組合中央会・各連合会 会長、 香川県農業協同組合 経営管理委員会会長、 (株)日本農業新聞 代表取締役会長	森 匡史	株式会社百十四銀行 代表取締役頭取
		西中 美和	香川大学大学院地域マネジメント研究科 教授
		(2024年度の講師です。)	

担当授業科目	ゲーム理論
--------	-------

穴戸 栄徳	香川大学 名誉教授
-------	-----------

担当授業科目	ビジネス・アカウンティング(財務会計)
--------	---------------------

國村 年	國村公認会計士事務所 所長
------	---------------

担当授業科目	費用便益分析
--------	--------

那須 清吾	高知工科大学経済・マネジメント学群 教授
-------	----------------------

担当授業科目	経営リスク・マネジメント
--------	--------------

辻 紳一	福山市立大学 准教授
------	------------

担当授業科目	観光地マネジメント
--------	-----------

藤田 明久	株式会社MIXI 独立社外取締役
-------	------------------

担当授業科目	デザイン・マネジメント
--------	-------------

大場 晴夫	香川大学 教授
(2025年度の講師です。)	

■公益財団法人かがわ産業支援財団 提供講義

担当授業科目	地域の中小企業と経済活性化 【公開講座】
--------	----------------------

近藤 清志	公益財団法人かがわ産業支援財団 理事長	岡 宏治	株式会社岡モータース・ 株式会社キャンピングカークルー 代表取締役
菅 徹夫	株式会社菅組 代表取締役社長	志倉 喜幸	株式会社ハイレゾ 代表取締役社長
中武 義景	株式会社中武商店 代表取締役社長	奈良 俊介	奈良電機重工株式会社 代表取締役社長
流石 学	株式会社四国水族館開発 代表取締役、 東京薬科大学薬学部 客員准教授	佐々木 良	株式会社万葉社 代表取締役
早川 茂	一般社団法人希少糖普及協会 代表理事	田中 祐	株式会社中田養蜂 代表取締役社長
藤原 康雄	ユニコム株式会社 代表取締役社長	池田 晃	一光電機株式会社 代表取締役会長
白川 大輔／白川 洋子	白川農場株式会社 代表取締役／専務取締役	高尾 明香里	株式会社Japan Fruits 代表取締役
		安守 直敏	株式会社旺建 代表取締役
		(2025年度の講師です。)	

■四国ツーリズム創造機構 提供講義

担当授業科目	地域活性化と観光創造
--------	------------

塩出 慎吾	小豆島観光協会 事務局長	石井 紫	三豊市観光交流局 チーフマネージャー
奥村 敏仁	道後温泉旅館協同組合 理事長	三浦 治	幡多広域観光協議会 事務局長
日下 敏嗣	そらの郷 常務理事兼事務局長	佐藤 勝典	香川大学大学院地域マネジメント研究科 准教授
		(2024年度の講師です。)	



地域マネジメント研究生20期生
株式会社 ナイガイ
梶原 孝子
Takako Kajihara

Q. 香川大学ビジネススクールで得たものは何ですか？

A. 大学で学んだ知識に加えて、タイムマネジメントのスキルも大きな成果です。仕事と学業を両立するのは想像以上に大変でした。在学中は、講義やレポートに追われつつ会社の業務をこなす中で、やるべきことを整理し、優先順位をつけ、効率的に行動する力が求められました。2年間を通じて、時間の使い方を意識的に考える力が自然と身につきました。

Q. これまでの学生生活の中で特に印象的だった授業やイベントは？

A. 2年次のプロジェクト研究です。先生方は、単に理論や分析方法を教えてくださいただでなく、私たちのバックグラウンドや今後のキャリアを見据えた指導をくださり、今後仕事をしていく上での指針を得ることができました。個性豊かでエネルギーに溢れた先生方や同級生に引っ張ってもらい、何とかやり遂げることができました。

Q. これから入学を考えている方々にアドバイスをお願いします。

A. 同級生には大企業や香川を代表する企業、行政機関で働く人が多く、中小企業で働く私は不安を感じていました。しかし、実際には全く心配する必要はありませんでした。むしろ、中小企業だからこそ、学んだことをすぐに実践できる環境があります。中小企業で働く方にこそ、地マネでの学びをお勧めします。あなたの成長に役立つはずです。



地域マネジメント研究生20期生
国立療養所高松病院附属看護学校(現国立病院機構四国こどもと大人の医療センター附属善通寺看護学校)
社会福祉法人 手をつなぐ育成会
中村 佳代子
Kayoko Nakamura

Q. 香川大学ビジネススクールで得たものは何ですか？

A. 多様な分野の専門家や志を同じくする仲間との貴重な人脈を築くことができました。また、医療・介護の現場に経済の視点を取り入れ、地域課題への具体的なアプローチ方法を学びました。さらに、香川県の強みである地理的利便性や豊かな食文化、そして課題である人口減少や資源の制約を再認識し、地域発展の可能性について改めて考えるきっかけを得ました。

Q. これまでの学生生活の中で特に印象的だった授業やイベントは？

A. どの授業もそれぞれ思い出深いですが、「意思決定分析」が印象に残っています。これまでの主観的な考えに加え、数字やデータに基づく論理的な視点を学び、新たな発見に繋がりました。また、正式な授業ではありませんが、アントレプレナーシップのプログラムを通じ香川の魅力を再発見し、異業種や世代間の交流、そして先輩とのつながりを築く貴重な経験ができました。

Q. これから入学を考えている方々にアドバイスをお願いします。

A. 自分の関心や目標を明確にすることが重要です。授業だけでなく、他の学生や地域の方々との交流を通じて多様な視点を得ることが成長につながります。特に、実践的なプログラムやネットワーキングの機会を積極的に活用し、自分の強みを発見していくことをお勧めします。地域や社会に貢献できるスキルを身につけ、挑戦を恐れず、一歩踏み出す勇気を持ってください。

地域マネジメント研究生20期生
神戸商科大学(現・兵庫県立大学)商経学部国際商学科卒業
香川県庁

裏山 明信
Akinobu Urayama



Q. 香川大学ビジネススクールで得たものは何ですか？

A. 香川県で生きていくために必要な知識、経験、出会いです。地マネには、実際のビジネスでも活かせる知識を体得できる授業が多くあります。経験豊富で情熱的な教員もいます。そして多様性に富む魅力的な仲間たちとも出会うことができます。地マネの生活を経て、何事も自分事として考え、主体的に取り組む人間に近づくことができたのではないかと感じています。

Q. これまでの学生生活の中で特に印象的だった授業やイベントは？

A. プロジェクト研究です。これは、2年次に、これまでの授業で学んだ知識等を総動員して、自分が持っている問題意識を解決するための実践的な総仕上げとなる、いわゆる修士論文を作成する授業です。毎週、3名の教員からの多角的な指導や仲間からの発言内容などを踏まえ、自分なりに情報を整理、刮目、分析するなど、一年間、真剣かつ継続的に向き合うことができました。

Q. これから入学を考えている方々にアドバイスをお願いします。

A. 入学すればこれまでの生活が一変します。学生シンポジウムやフィールドワークなど大学院生として様々なことに取り組むため、家庭やプライベートの時間が間違いなく減ります。しかし、2年間があったという間に過ぎたように感じるほど充実したものになります。大切なものは、最後に成果として得られるものだけではなく、その道中でふいにみつかることがあるのです。

地域マネジメント研究生20期生
松山大学経済学部経済学科
株式会社NTTデータ四国

高橋 寛
HIROSHI TAKAHASHI



Q. 香川大学ビジネススクールで得たものは何ですか？

A. 物事の見方や考え方が変わった点です。入学前は、職務においても最短距離でゴールを目指すにはどうすればいいかに主眼を置いていたので、仮説の構築に関しても1つの仮説ありきのようなものでした。香川大学のビジネススクールに入学し、多くの授業で学び、たくさんの仲間と議論を重ねて結論を導く力を養ったことで、物事を多角的な視点で考える力が養われました。

Q. これまでの学生生活の中で特に印象的だった授業やイベントは？

A. 中小企業ファイナンスと事業承継です。架空の美容室を起業し、成長段階を経て上場するまでの事業計画を立てました。美容業界の知識や経営のノウハウもない中、知人の美容室や老人ホームにヒアリングに行き、毎週チームメンバー3人で役割分担しつつ、授業終わりや休日に集まり、課題をやり遂げました。机上の経営でしたが、経営の難しさや厳しさを学ぶことができました。

Q. これから入学を考えている方々にアドバイスをお願いします。

A. 私は、遠方からの入学であり、この2年間は二重生活でした。仕事と学業の両立はさることながら、時間のやりくりが大変でした。それでもやってこれたのは、家族・職場・知人の理解や支援はもちろんのこと、一緒に学ぶ仲間や諸先生方のおかげだと思います。地マネでの2年間の学びはかけがえのない財産です。学びたい方、チャレンジする価値はあると思います。

仕事と勉学の両立



地域マネジメント研究科21期生
広島大学 生物生産学部 生物生産学科
菊間中小企業診断士事務所

菊間 崇史

Takashi Kikuma

Q. 香川大学ビジネススクールへ入学した動機と目的を教えてください。

A. 出身地である善通寺市の市役所の方から「市の衰退が激しい」との話があり、「どうにか市を活性化させよう」と話をしたのがきっかけで地域活性化に関心を持ちました。しかし、自分には地域活性化に関する知識はありません。どこかで学べないかと探したところ、香川大学ビジネススクールで地域活性化の勉強ができると分かったので入学しました。

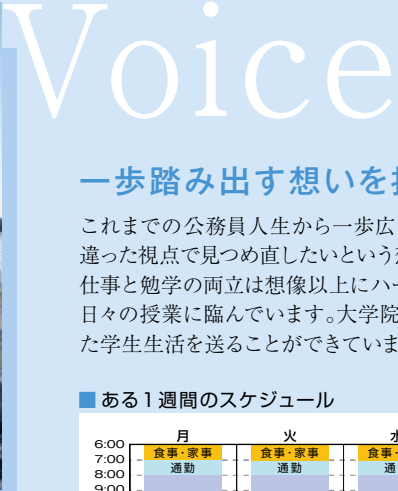
Q. これまでの学生生活の中で、特に印象的な授業やイベントを教えてください。

A. 「地域マネジメント論」です。地域の活性化がどのようなメカニズムで起こるのかについて、過去の研究や実際に活性化した地域の事例から学ぶことができました。そして、自分が取り組もうとしていることが、自分が考えていた以上に複雑かつダイナミックな流れであり、むやみやたらに取り組んでも結果が出ないだろうということに気が付きました。

Q. これから入学を考えている方々にアドバイスをお願いします。

A. 当研究科の最大の特徴は、新たな知識と人とのつながりが得られることです。生徒は多くが社会人であり、日常生活や職場ではなかなか出会えないような人もいます。また、専門知識を持つ教授はもちろん、学外から行政の方や経営者などを講師としてお招きし、多様な話を聞かせてもらえます。新たな視点を得たい場合には非常に有効だと思います。

仕事と勉学の両立



地域マネジメント研究科21期生
香川大学法学部法学科、東かがわ市役所

竹田 明史

Akihito Takeda

Q. 香川大学ビジネススクールへ入学した動機と目的を教えてください。

A. これまでの公務員人生から一步広い世界に踏み出したい、ふるさとの地域をこれまでと違った視点で見つめ直したいという想いで、大学院を受験しました。仕事と勉学の両立は想像以上にハードですが、仕事・家庭のタイムマネジメントを意識して日々の授業に臨んでいます。大学院で学ぶにあたって、家族の応援が支えとなり、充実した学生生活を送ることができています。

ある1週間のスケジュール

	月	火	水	木	金	土	日
6:00	食事・家事	食事・家事	食事・家事	食事・家事	食事・家事	食事・家事	食事・家事
7:00	通勤	通勤	通勤	通勤	通勤	食事・家事	食事・家事
8:00						自習	自由時間
9:00	勤務	勤務	勤務	勤務	勤務		
10:00						食事	食事
11:00							
12:00	食事	食事	食事	食事	食事	食事	食事
13:00							
14:00	勤務	勤務	勤務	勤務	勤務	自由時間	自由時間
15:00							
16:00							
17:00							
18:00							
19:00							
20:00	学校	学校	学校	自習	学校	食事	食事
21:00						自由時間	自由時間
22:00							
23:00	食事・家事	食事・家事	食事・家事	食事・家事	食事・家事	家事	家事
0:00	就寝	就寝	就寝	就寝	就寝	就寝	就寝

仕事と勉学の両立

地域マネジメント研究科21期生
横浜市立大学 商学部 経済学科
ユニコム株式会社

竹島 由実

Yumi Takeshima

Q. 香川大学ビジネススクールへ入学した動機と目的を教えてください。

A. 社会変化の中で、様々な意味で学校教育の在り方を考え直す時ではないかと感じていました。話題にも上るように、教育現場を巡る状況は儼然たる極めています。人が育つことの本質を大切にしながら、地域・社会と関わり高め合うハブ的存在として多方面を活かすためにはどうすれば。そう考え、このフレームの外から、未来に向けて教育の役割と可能性を捉え直したいと思いました。

Q. これまでの学生生活の中で、特に印象的な授業やイベントを教えてください。

A. とにかく日々の授業が濃厚です。新しく得る知識を咀嚼する過程で、自身の歩みの過程や価値観を顧みることができます。グループワークやディスカッションでは、様々な背景を持つ同期や先輩から受ける刺激が多く、培ってきたものや思考を客観視し、今後へ活かそうと思えます。私は「事業構想論」「組織行動論」「地域マネジメント論」で特に考えさせられることが多くありました。

Q. これから入学を考えている方々にアドバイスをお願いします。

A. 学ぶことと生きることが、生涯密接に関わる時代。外ではなく、「私」の想いが動機の核です。日常生活ではコミュニティが限定しがちで、価値観や関係性は固定化し偏りが生じます。それは、特化・強みですが、変化への柔軟さや視野の広がり等には弱いかもしれません。地マネには、体感しながら身に着けるきっかけが散らばっています。学びを求める人に、応える場所ですよ。

ある1週間のスケジュール

	月	火	水	木	金	土	日
5:00	家事	家事	家事	家事	家事	就寝	就寝
6:00						家事	食事・家事
7:00						通学・自習	家事
8:00						学校	自習
9:00						通学・自習	食事
10:00	勤務	勤務	勤務	勤務	勤務	自習	
11:00							
12:00							
13:00							
14:00							
15:00							
16:00	家事	家事	家事	家事	家事	家事	家事
17:00	通学・自習	通学・自習	家事	通学・自習	通学・自習	家事	家事
18:00							
19:00	学校	学校	自習	学校	学校	家事	家事
20:00						食事	食事
21:00	通学・自習	通学・自習	通学・自習	通学・自習	通学・自習	勤務 (リモート)	自由時間
22:00							WEB MTG
23:00	家事	家事	家事	家事	家事	就寝	就寝
0:00	就寝	就寝	就寝	就寝	就寝	自由時間	自由時間



主な勤務先（過去6年間）

◎ 公的機関

香川県庁・愛媛県庁・高松市役所・丸亀市役所・坂出市役所・さぬき市役所・東かがわ市役所・三豊市役所・観音寺市役所・国土交通省・香川労働局・日本政策金融公庫・りつりん病院・高知大学医学部附属病院・高知県立大学・阪大微生物研究所会・香川大学医学部附属病院・高松赤十字病院 他

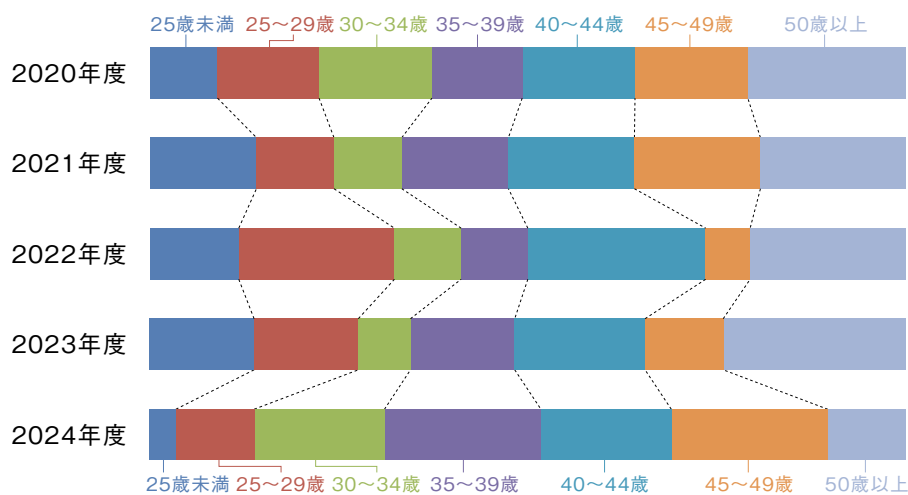
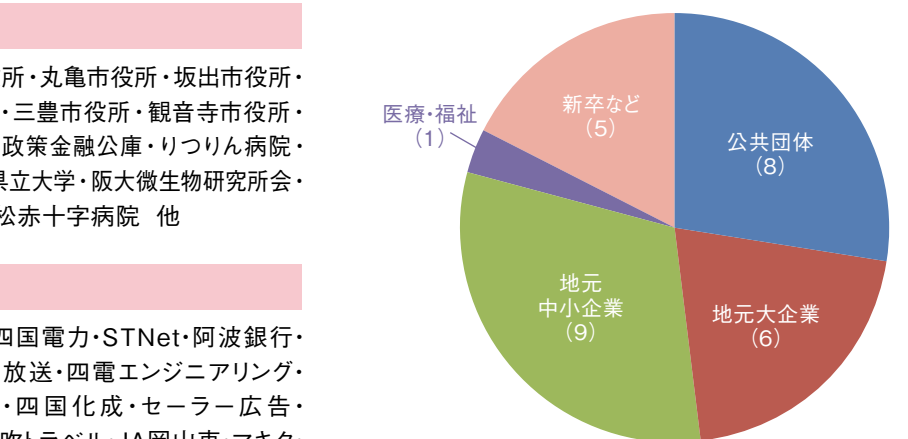
◎ 民間企業

四国旅客鉄道・百十四銀行・四国電力・STNet・阿波銀行・タダノ・西日本放送・瀬戸内海放送・四電エンジニアリング・大倉工業・南海プライウッド・四国化成・セーラー広告・損害保険ジャパン日本興亜・穴吹トラベル・JA岡山東・マキタ・伊予銀行・三菱UFJ銀行・味のちぬや・東京海上日動火災保険・四国水族館開発・JFEスチール・香川県農業協同組合・伊藤忠商事 他

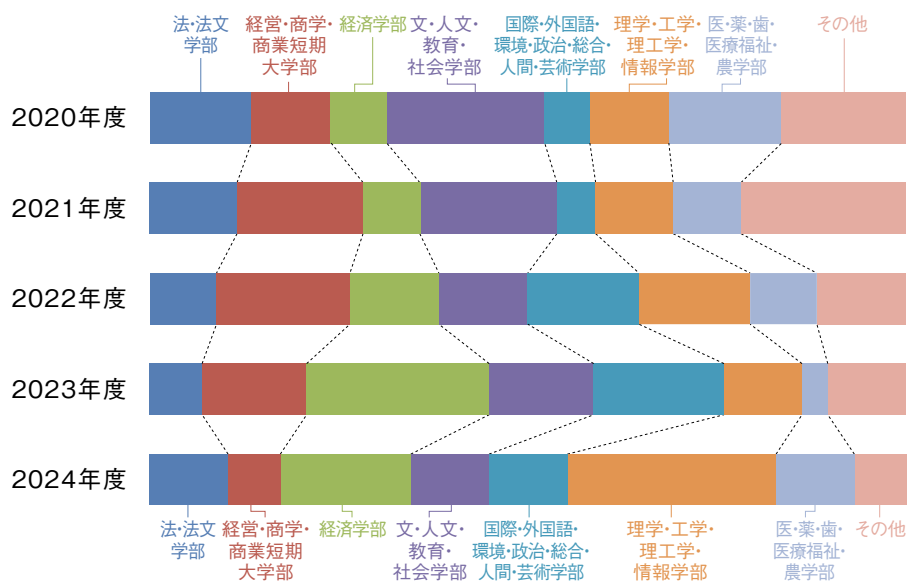
構成比

年齢別構成

入学者所属構成 (2024年度)



出身学部別構成



■ 修学助成の一例

教育訓練給付制度

一定の条件を満たす雇用保険の被保険者、または被保険者であった方が、厚生労働大臣の指定する専門実践教育訓練を受講し修了した場合、本人が教育訓練施設に支払った教育訓練経費の一定の割合額がハローワークから支給される制度です。本研究科は、厚生労働大臣の指定を受けた教育訓練講座ですので、本人が支給要件を満たしていれば、最大で入学金と2年間の授業料の70%の支給を受けることができます。詳細は、ハローワークが発行している「専門実践教育訓練の給付金のご案内」のリーフレットを参照してください。

■ 入試の考え方

入学試験においては、アドミッションポリシーと整合的な志望動機や将来の計画を有しているか、カリキュラムを受講するにあたって必要な論理性・表現力を有しているかについて、小論文および書類・面接により審査します。なお、社会人選抜試験によって受験する者については、小論文を免除する代わりに、社会的経験を踏まえたより多角的な書類・面接審査を実施します。

■ 入学者選抜（一般選抜および社会人選抜）を、夏期、秋期、冬期の3期に分けて行います。

	検査日時	出願期間
夏 期	2025年 7月12日(土)	2025年 6月13日(金)～6月27日(金)
秋 期	2025年 10月11日(土)	2025年 9月10日(水)～9月26日(金)
冬 期	2026年 2月7日(土)	2026年 1月7日(水)～1月23日(金)

■ 選抜方法の概要は次図に示したとおりです。

